
海賊船でハロウィーンパーティー。

久野千花

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

海賊船でハロウィーンばーりい。

【Nコード】

N0320J

【作者名】

久野千花

【あらすじ】

さて、誰が生き残るのでしょうか？

パーティーで、かわいく激しく、ぜんりよくで遊びまくる海賊たち+ちよつとROCK！

フック船長の一人称。

本編よりも、萌えを意識した企画もの！（本編を読んでも大丈夫）

本編「HANDLE my love」（<http://drop>

s
t
o
r
y
.
b
l
o
g
g
o
.
f
c
2
.
c
o
m
/

（前書き）

本編「HANDLE my love」(<http://dropstory.blogg0.fc2.com/>)のハロウィン企画。

フック船長の一人称。

本編を読んでなくても大丈夫です

こんにちは。

ジェームズ・フックです。

H A N D l e m y l o v e を読んでいただきありがとうございます。
ざいます。

ちょうど、俺が登場してきたあたりですよ。

船の乗組員たちもだいたい出そろいましたね。みんなけっこう、
かわいいでしょう？

ところで今日は、ハロウィン

うちの船では、毎年盛り上がるんですが、みなさんの方はいかが
ですか？

俺の方は、うちの子たちが悪ノリしないように気をつけなくちゃ
なあ、なんて思っています。

なにしろ、去年も、その前も、、ちょっと外部の人には言えな
いようなことばかりしてきた黒歴史が（汗

まったく、お恥ずかしい限りですが、
なにこのケーキうまーーーーー！！！！

今、カボチャのタルト食べてるんですけど、すごいおいしいで
すこれ。

うちの料理長がつくったんですが、名作です。涙でてきましたあ。
じーん…

よし、紅茶いれよう。

「フック船長ーーーー！！」

背後の扉が勢いよくあきました。だいたい、こういうとき、邪魔されるんです。お決まり。

「何してるんすかー!!」

「ん、ハロウィンだからコメント求められてるんだよー」と言いながら振り返ると、うわわわわわー!

「リアム、お前、変だぞ! 顔: 顔はどこにいったんだ!」

「ここですよ。」

ぽこつとリアムの顔が出てきました。風船みたいに膨らんだ首のない胴体の、胸の真ん中から。

「なにそれ!？」

「フック船長、今日はハロウィンですよ。」

「知ってる、だからなんなのそれ!？」

「言ったじゃないですか。今年のハロウィンは、船中でコスプレして騎馬戦バトルロワイヤルです」

「コスプレっていうか、着ぐるみに近いぞ」

「細かいことはいいんです」

「はあ。そうですか。勝手にやれよ。怪我はするなよ。」

「いやもう、怪我人出てます」

「え!？」

「マストに突き刺さった奴もいますし」

紅茶のカップをおいて、窓にかけよって外を見ると、一番高いマストに誰かの体が突き刺さってます(汗)。

顎の下から頭を貫通して、ぐるおぐるお。ぐるおぐるお、巨大な、ピンクのクマが揺れていました。

そのクマにしがみついている、小さな青いクマも見えます。

「ま、着ぐるみ部分に刺さってるだけですけど。」

「ジンジャーと蒼太…だよな」

あ、本篇では乗組員の名前は出てこないんですよね。

でも、まあ、いいですよ。特別編ですから、これ。

「そうです。けっこう、ねばったんですけど、やっぱあいつらまだ若いですねー。甘かったですねー。」

リアムは大して年も変わらないのに、先輩顔をして言っています。

「はあ」

俺としてはため息が出ました。また、今年も始まっちゃったみたいです。

「ところで、船長、相談なんですけど。」

「なんなの、やな予感。」

「実は、今年、”あの人”が初めて参戦してるんですよ」

「だれ？」

「料理長です」

まさか！だって、行事ごとの船員たちのバカ騒ぎに、俺と料理長だけは参加しないでお昼寝してる側だったのに。

なぜ今年のハロウィーンに限って？

「船長、覚えてますか、今年の勝者の景品」

「ああ。」次の目的地の港を自由に決められる権利”…あつ。」

料理長は、常々、口癖のように、”いつか氷河でロックを飲むのが夢”だって…

「そうなんですよ、料理長、本気です。」

「本気か？」

「大まじです。俺たちこのままじゃ殲滅させられます」

この船の中で、生まれた時からずっと海で生きてきた生粋の海賊

は、料理長だけだ。

奴が本気になつたら、うちの子たちがかなわないのは仕方がないこと……リラムが一刻もおしい、というように言う。

「このままじゃ、俺たち北極行きになります」

「俺はやだぞ。寒い嫌い。それにだいたい、この船には氷河を割って進む装備なんてないっての。」

「料理長がそんなことくらいで納得するわけないです泣」

俺は、やなものは絶対やってきっぱりしてるんです。

譲れないものは譲れないし。通すところは通さないと。

「むこうの馬は？」

「レオと、カグヤですね」

「じゃあ、お前ら俺につけ」

「ういつすww」

リラムとノエルの双子が俺の馬。

俺は、上着を脱ぎました。絶対、奴の思うとおりにはさせません。

「じゃあ、船長、このクジ引いてください。」

「はあ？」

リラムが、立ちあがった俺に、変なビニール袋を差し出します。

「ルールですから。」

「はあ。」

俺は、一枚引きだしました。ノエルが俺からクジを受け取り、開きます。そして、

「……いまいち。船長、もう一度。」

俺は、もう一枚引出しました。ノエルが同じく。

「……もういつかい、いいですか。」

もう一枚。ノエル。

「んー……」

「なんなんだよ」

俺はイラついてきました。

「いや、船長にはどのコスプレがいいかなって。」

「は？」

「コスプレで騎馬戦、がルールなんで。」

「どーでもいいだろ」

「だめです！」

そう言うノエルは、黒猫の耳とシッポがついていました。

「じゃあ、お前が適当に決めろよ」

「はい。では、これとこれ、どっちがいいですか。」

そういうノエルに、リアムが

「あ、結構いいじゃん。」

などと言っています。ノエルがさしだしてきた2枚のクジの紙には、

「ウエディングドレス（血痕つき）」、

「セーラー服（ロングスカート＋眼帯）」

と書いてありました。

「はあ!？」

「船長決めてください！俺だって猫耳コスなんですよ!!!」（恥）

「じゃあ、といって俺は指差す。」

「セーラー服だろ、せめて。」

「いちおう、おれも、海賊である前にセーラーだし。（と無理やりなつとく。）」

それから、これもいちおう、聞いておこう。

「他に聞いておいたほうがいいルールある？」

リアムがいう。

「負けたら、一日ふんどしで過ごします。」

「じゃあ、勝つ。」

俺は言う。

甲板に出たら、ふんどし決定な仲間たちが、体に痣をつくった痛々しい姿で倒れていた。

けれども、馬に乗った俺を見ると、おおおーと歓声をあげて起き上がり、手を叩いて迎えた。

俺は髪をかきあげた。

長いスカートが風にぱたぱたとはためく。

正面から来るのは、同じく優秀な馬に乗った、あいつだ。

なんだか、殺し屋みたいな格好してやがる。

「ゴルゴですって」

俺の馬が答えた。

相手も相当な気迫だ。簡単には勝てなそうだな。まったく、お前は
おとなしくケーキ作ってればいいのに。

「なあ馬、一つ聞いていいか。」

「なんでしよう。」

「お前ら、実は、俺と料理長の一騎打ちが見たかっただけなんじゃないの。」

二騎の周りには、あつというまに人だかりができて、いけいけーなどという声も聞こえてくる。

「ご名答です みんな、めっちゃ盛り上がってます」

…まったく。

だが、俺は勝つ。

あいつがこの船に乗ってるのは、あいつが俺には勝てないからな

んだぜ。

次の港は、俺が決める、いつも通りな！！

あいつが剣を抜いたので、俺も抜いた。

はーん！この俺に向かって二刀流で来るとはね！！！！かんけーね
ーけど！

「行くぜっ」

（後書き）

というわけで、明日に続く！

といたいけど、続きません

でも、フック船長が勝ちますよ 作者が保障します

なぜなら、この船で一番我儘なのは、実はフック船長だからです
ふふふ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0320j/>

海賊船でハロウィーンパーティー。

2011年11月12日20時41分発行